

令和2年6月24日

協会役員様  
各支部長・理事様  
関係各位

北海道文化団体

全日本下の句歌留多協会  
会長 土門 守



## 新型コロナウイルス感染防止に関する見解について

初夏の候、貴職益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染は全世界で拡大し、生活や雇用、経済活動の全てに影響を及ぼしました。5月下旬に緊急事態宣言が解除された以降、徐々に日常生活が戻ってきており、感染拡大が収束に向かっていると感じるものの、今もなお根本的な問題は解決せず、一方で、今後は感染症と共存する「新しい生活様式」も示されています。

こうした中で当協会は、2月下旬に全日本下の句歌留多選手権大会並びに協会大会の中止をお知らせし、各支部主催の大会もそれぞれ中止の判断がされました。

さらに、宣言後は感染防止のため、各支部では歌留多の練習や子どもの指導といった歌留多振興も自粛されてきたと推察しています。

6月10日現在、感染拡大は札幌市と石狩管内、空知管内で発生している状況で、全道的には落ち着いてきていると言えますが、今後もしいわゆる「3密」による集団発生（クラスター）が起きかねない状態が続くと懸念されています。

つきましては、当協会として、今後の歌留多競技に関して、次のとおり見解を示すこととし、支部、会員の皆さまのご理解をいただきたいと思います。

なお、ご不明な点は吉田事務局長までお問い合わせください。

### 1. 社会情勢の認識

- ① 新型コロナ感染に関しては上記に加え、未だに治療ワクチンや検査方法が十分に確立されておらず、国の新型コロナウイルス感染症対策本部会議（5月25日）では、引き続き、「3密」の回避や人と人との距離の確保、マスクの着用を始めとした基本的な感染対策の継続・徹底をお願いしている。

- ② 歌留多競技は、密閉空間、密集場所、密接場面、いわゆる「3密」を避けることができないため、集団感染やそのことによる医療崩壊につながる原因を発生させる可能性が高い。
- ③ 歌留多競技は、当協会の支部、会員だけの財産ではなく、北海道の伝統文化、地域活動や子どもたちの教育、育成に寄与している存在であり、社会的影響力が大きい。

## 2. 当面の考え方

- ① 以上の認識を共有いただいたうえで、協会としての見解を以下のとおり示すものとする。
  - (ア) あくまでも各支部や会員の判断にはなるものの、協会としては、当面は「3密」状態となる歌留多競技を見合わせることを望ましいと考えている。
  - (イ) 各支部、会員の判断で歌留多を行う場合は、その者の責任において行うこととし、地域や学校における子どもたちの指導も同様とする。
- ② 次年度の大会について、新型コロナに対処するワクチンや薬剤、医療の充実が図られない限り、大規模イベントの規制、会場使用の制限等があるため、大会が開催できないことも想定されるが、本年10月予定の定期総会で判断する。
- ③ 「3密」を避けることができない現在の歌留多の競技方法やルール、大会の在り方を今後検討する。

## 3. 全道子どもかるた大会の情報

- ① 例年2月に開催している全道子どもかるた大会は、北海道子ども会育成連合会事務局によると、活動計画、予算は確認されているが、同会の夏季行事は全て中止となっている。
- ② 本年10月に同会の地域代表者による会議が行われ、新型コロナ感染拡大の状況により子どもかるた大会開催の可否が検討される予定。大会予定日は令和3年2月21日(日)。

以上

全日本下の句歌留多協会事務局長 吉田雅人  
協会事務局メール [shimonokukaruta@gmail.com](mailto:shimonokukaruta@gmail.com)  
協会ホームページ <http://shimonokukaruta.com>